

谷口泰富先生・茅原正先生・間島英俊先生のご退職にあたって

八巻 秀

Farewell words to Professor Yasutomi Taniguchi, Tadashi Chihara, Hidetoshi Majima
Shuu Yamaki (Chairman of the Department of Psychology, Komazawa University)

長らく駒澤大学文学部心理学科を支えてこられた、谷口 泰富先生、茅原 正先生、間島 英俊先生の3名の先生が、平成31年3月をもって定年退職されることとなりました。まずは3名の先生方が、ともに定年まで無事に勤め上げられましたこと、心からお慶び申し上げます。

3人の先生方と本学文学部と関わった期間は、そのまま本学心理学研究室あるいは心理学科の歴史でもあるといっても過言ではないと思います。

九州大学から禅心理の大家であった秋重義治先生が本学に赴任した1968年、本学大学院に心理学専攻修士課程が設置され、翌1969年には学部教育として文学部社会学科の中に心理学コースが開設されました。さらに1970年には大学院の博士課程が認可され、この時期が本学における実質的な「心理学研究」の始まりでありました。

このような本学心理学研究の体制が整っていった時期に、谷口・茅原・間島の3先生は、駒澤大学大学院心理学専攻に大学院生として在籍されていました。

当時は、駒沢キャンパス第1研究館の向かいにあった今はなき仏教研修館いわゆる竹友寮内の実験室や、4号館の裏にあったプレハブの建物にあった実験室などで、学生達はだるまストーブを焚きながら実験していたとのこと。おそらく3人の先生方も秋重先生の厳しい指導のもと、大学院生として懸命に心理学研究をされていたことでしょう。3名の先生方の修士論文のテーマは、ともに「定心（と時間意識）に関する心理学的研究」。当時の当心理学専攻の特質でもあった「禅心理学の研究」が、3人の先生方の心理学研究者としてのスタートでした。

その後、谷口先生は禅瞑想の生理心理学的研究に進まれて、1996年に学位論文『禅瞑想の生理心理学的考察』で博士号を取られ、その後、虚偽検出に関する基礎心理学的研究へと研究を展開されていきました。また授業も長らく「人格心理学」や「生理心理学」などにおいて、学生も惚れ惚れするような美しい黒板の板書をされながら、ご担当いただきました。

茅原先生は「瞑想と時間意識および呼吸機能に関する研究」というテーマで研究を続けられ、1998年に学位論文『禅瞑想と時間体験に関する心理学的研究』で博士号の学位を取られました。首尾一貫して駒澤大学における禅心理学の研究を担い続け、心理学科の必修科目であり重要科目でもある「禅心理学」の授業はもちろんのこと、「心理学概論」も長らくご担当していただきました。授業では学生の坐禅体験を導入したり、学問的には厳しい中で、人間的な優しさを感じられる講義を展開していました。

お二人の先生ともに助手の経験を含めて、41年間の長きにわたって駒澤大学に勤務されたこととなります。

その後、1998年に心理学科が誕生し、その時点では谷口先生は教授として、茅原先生は助教授としてすでに心理学科を担う中堅の教員として活躍されていましたが、1999年には間島先生が駒澤大学北海道教養部から助教授として赴任してこられました。

間島先生は大学院修了後、学部生時代過ごされた駒澤大学北海道教養部に戻られ、心理学コースの学生への指導(その当時、1～2学年は教養部で学び、3学年から東京本校に移行)と、保母教育に従事し、児童心理学などといった発達心理学、そして大学教育の中での青年に関する発達研究に次第に研究領域

がシフトしていきました。そして前述したように1999年に再び駒澤大学に赴任されて、北海道と東京2つの駒澤大学で、合わせてやはり41年間勤務されました。授業では学部1年生が初めて心理学に触れる「心理学概論」を主に担当され、ユーモアを交えた楽しい授業を展開していただきました。

学内業務では、3人の先生ともに学科主任2年間務められ、専攻主任は谷口先生が4年間、茅原先生も合わせて4年間務められました。その後、谷口先生は全学教授会委員を4年間、そして文学部長として4年間務められ、文学部の教授会の効率的な運営に大きな貢献をされました。

3人の先生方は、ともに駒澤大学心理学研究室の創成期を担われた秋重先生の門下生であり、ここまで述べてきたように、駒澤大学心理学研究室50年の伝統を、初期の頃から積み上げてきてくださった大きな存在でもありました。その先生方が一気に3名も同時に定年退職でやめられてしまうことは、以前からわかっていたこととは言え、やはり一抹の寂しさを感じることは拭えないですし、駒澤大学心理学研究室にとっても、大きな痛手ではあります。

3人の先生方からご覧になって、少々心許ないかもしれませんが、残る心理学科の教員と先生方の後任である新しく迎える先生方とで、秋重先生から続く「駒澤大学心理学研究室」の半世紀の伝統をしっかり意識し、それらを大切にしながら、さらに発展させていけるように、一同頑張っていきたいと思えます。

谷口先生、茅原先生、間島先生、くれぐれもお体を大事になさって、次なる人生の歩みをゆったりとお進みになりながら、雑務なき研生活などを、どうぞ楽しんでください。そして、いつまでも駒澤大学心理学研究室を見守り続けていただければ、とてもありがたく思います。

長い間、本当にお疲れ様でした。そして、ありがとうございました。